

3/4 (土)

●平成伎楽団 大和西瓜 茂山千三郎 ほか

●基調講演「仮面の魔力」

宮本圭造 (野上記念法政大学能楽研究所教授)

●トークイベント「仮面芸能のふるさと奈良」

岡本彰夫 (奈良県立大学客員教授)

大倉源次郎 (能楽囃子方大倉流小鼓十六代宗家)

宮本圭造 (野上記念法政大学能楽研究所教授)

藪内佐斗司 (奈良県立美術館館長)

ナビゲーター 桂吉坊 (落語家)

●石見神楽 ヤマトノオロチ 有福神楽保持者会

3/5 (日)

●舞楽 蘭陵王 南都楽所

●鬼剣舞 一人加護 ほか 京都鬼剣舞

●能楽 翁 金春流

仮面芸能

奈良

のふるさと

奈良県立美術館開館50周年
記念特別展プレイイベント

令和五年

3/5 (日) 3/4 (土)

開場12時
開演12時45分
終演16時(予定)

【料金】(各日)2,500円 (両日)5,000円

(税込) ※詳細は裏面をご確認ください。

【主催】奈良県立美術館 【助成】一般財団法人地域創造

画像提供(右上・左上・左中) / 丸尾万次郎(能面師)

チケット販売について

【観覧料金】※座席は当日、受付順に指定させていただきます。

一 般…(1日)2,500円 (両日)5,000円 (すべて税込み)

大・高生…(1日) 500円 (両日)1,000円 (すべて税込み)

中学生以下…無料観覧券(各日先着100名)

・無料観覧券は、LMSのみで取り扱います。
(その他のプレイガイドでの取り扱いはございません。)
・定員となり次第、受付終了となります。
・親子でお申込みの際は、LMSでお申込みください。

【チケット発売日】12月12日(月)10時～

【チケット取り扱い】

◇LMS 03-6912-0945(平日10時～18時)

◇チケットぴあ 0570-02-9999 Pコード 516-397

◇奈良春日野国際フォーラム 窓口販売のみ

・最終販売日時は購入方法によって異なります。売り切れ次第販売を終了いたします。
・販売枚数に制限があります。一回につき4枚までの購入が可能です。
・購入後の払い戻しはいたしかねますので、ご注意ください。
・団体料金の設定はありません。
・大高生券の予約・発券された方及び中学生で無料観覧券を発券された方は、観覧当日に学生証などの提示が必要です。
ご提示いただけない場合には通常料金との差額をお支払いいただきます。

【座席について】

・ご購入いただいたチケットを会場受付でご提示ください。「座席指定券」に引換させていただきます。
・引換時間は当日の10時からとなります。
※座席はこちらで指定するため、お選びいただくことが出来ませんので、ご了承ください。

詳しくは公式Webサイトをご覧ください。

ラオックス・メディアソリューションズ 検索



会場

【アクセス】

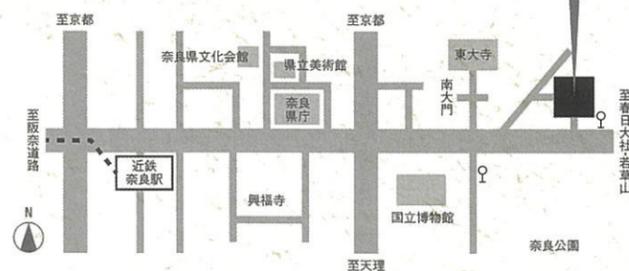
〒630-8212 奈良市春日野町101

●近鉄奈良駅下車 東へ徒歩20分

●近鉄奈良駅及びJR奈良駅よりバス

「春日大社本殿」行き「奈良春日野国際フォーラム 薨前」下車すぐ
又は「市内循環(外回り)」バス「東大寺大仏殿・春日大社前」下車、
大仏殿交差点東へ徒歩3分

奈良春日野国際フォーラム 薨 ~I・RA・KA~



【来場・観覧について】

○会場は奈良春日野国際フォーラム薨能楽ホールです。
○会場には駐車場がありません。公共交通機関をご利用のうえご来場ください。
○入館前には検温および手指の消毒をお願いいたします。

【今後について】

○新型コロナウイルス感染症拡大状況により、開催内容を変更する場合があります。

■お問い合わせ先 仮面芸能のふるさと奈良事務局 (LMS内)
電話:03-6912-0945(平日10時～18時)

わが国には、先史時代から「仮面芸能」という希有な文化が息づいています。

縄文時代の土面に始まり、飛鳥時代に朝鮮から伝わった仏教法会の芸能としての伎楽や大陸から伝来し平安時代に集大成され、日本の音楽の礎となった雅楽。

曲芸軽業の散楽・田楽。その起源が謎に包まれた稲作と密接な関係がある「翁」や猿楽から生まれ、芸術的に洗練された能・狂言へとつながります。

奈良県立美術館は、2023年に開館50周年を迎えます。

それを記念して、奈良発祥の仮面芸能イベントを企画いたしました。

「仮面芸能のふるさと奈良」で、日本の仮面芸能の歴史と面白さを体感していただきます。

基調講演

3/4

仮面の魔力

宮本圭造

(野上記念法政大学能楽研究所教授)

1971年大阪府生まれ。大阪学院大学国際学部准教授を経て、現在法政大学能楽研究所教授。能楽の歴史や能面を主要なテーマとして精力的に研究を続けており、奈良をはじめとする江戸時代の近畿地方の能楽史についてまとめた著書『上方能楽史の研究』で、日本古典文学会賞・芸能史研究会奨励賞・河竹賞などを受賞。その他の編著に『近代日本と能楽』『金春家文書の世界』などがある。



トークイベント

3/4

仮面芸能のふるさと奈良



大倉源次郎

(能楽囃子方大倉流小鼓十六代宗家)

1957年大倉流十五世宗家大倉長十郎の次男として大阪に生まれる。1964年独鼓「鮎之段」にて初舞台。1985年、能楽小鼓方大倉流十六世宗家継承。2017年に59歳の若さで人間国宝に。海外公演にも数多く参加し、能楽のふるさと、奈良・多武峰での「談山能」も企画、毎年開催。



岡本彰夫

(奈良県立大学客員教授)

1954年奈良県生まれ。1977年春日大社に奉職。春日大社では殊に祭儀の旧儀復興に尽力し、数々の神事を本儀に復すとともに、式年造替においては、平成七年の第五十九次式年造替でほぼ完全な形に復興させた。2001年より2015年まで春日大社権宮司。現在、奈良県立大学客員教授、放送大学客員教授。



敷内佐斗司

(奈良県立美術館館長)

1953年大阪生まれ。東京藝術大学及び大学院で彫刻を学んだ後、仏像の古典技法と保存修復の研究に従事。1987年から彫刻家として独立、創作活動を始める。奈良県の公式キャラクター・せんとくんをはじめ、多くのキャラクターデザインを担当。現在は、東京藝術大学名誉教授、奈良県立美術館館長。

ああ、そうやったんか…

私たちが普段、何気なく目にする能楽や神楽、獅子舞といった芸能や神事。

日本には多種多様な歌舞音曲が存在し、その技芸は全国で今もどこかで披露されています。そうした日本に古くから伝わる芸能はいつどこで誕生したのでしょうか。

そして、どのようにして今日まで受け継がれてきたのでしょうか。

仮面芸能の分野で活躍する有識者が集まり、その魅力を存分に語り尽くすトークイベント。参加すれば、きっと舞台芸能を楽しむ視点が増え、こう感じてもらえるはずです。

「ああ、そうやったんか…」



司会・トークナビゲーター
桂吉坊

3/4

3/5

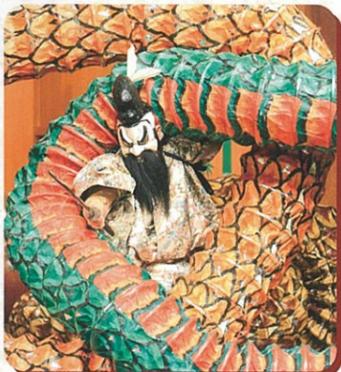
(落語家)
1981年兵庫県生まれ。17歳のときに桂吉朝に入門。2000年より桂米朝のもとで内弟子修行。2003年に内弟子を卒業。歌舞伎や能・文楽などの古典芸能に詳しく、芝居師を得意とする。なにわ芸術祭奨励賞、同新人賞、繁昌亭大賞奨励賞など数々の賞に輝く。



伎楽・平成伎楽団

3/4

平成伎楽団は奈良県立美術館館長でもある彫刻家、敷内佐斗司プロデュースによる仮面芸能の集団です。ユラシアの悠久の歴史のなかに生まれ消えていったさまざまな芸能や文化の遺伝子を持つて誕生した「平成伎楽団」は、芸能の原点であり、まったく新しいエンターテインメントです。天平人を魅了した「伎楽」の遺伝子が狂言師茂山千三郎師による融通無碍な新作狂言「大和西瓜」として蘇ります。大いに期待ください。



神楽・有福神楽保持者会

3/4

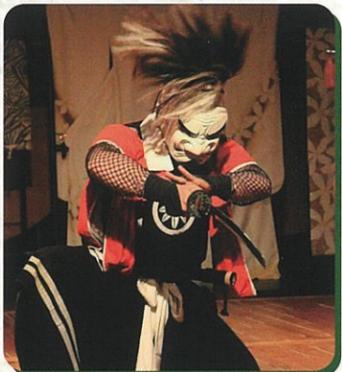
有福神楽は明和年間(1760年頃)に、神職とともに氏子が舞い始めたことがその始まりと伝えられています。神楽の演目は極めて多く、有福神楽は他の神楽では絶えてしまった演目を保持し昭和39年に島根県無形文化財の指定を受けました。近隣の秋祭りを始め、県外又、国外公演にも参加しており、また、子供神楽の指導など積極的に伝統継承に努めています。



舞楽・南都楽所

3/5

南都楽所は長保3年(1001年)に左方舞人の柏光高(995-1104)が南都に復帰し、始めました。明治3年(1870年)11月に、維新の余波でそれまでの「南都楽所」が廃止されましたが、昭和7年(1932年)、春日大社を中心として、様々な古楽の伝承・保存を目的として「春日神社古楽保存会」が発足し、昭和43年2月には春日古楽保存会から雅楽部門が独立し、現在の「南都楽所」が結成されます。雅楽の伝承のため後継者育成を行い、中国やパリなど数多くの海外演奏で雅楽の普及活動も盛んに行っています。



鬼剣舞・京都鬼剣舞

3/5

鬼剣舞は、国の無形文化財に指定されている岩手県の民俗芸能です。伝えられている巻物によると、約1300年前に奈良の大峰山で山伏の祖・役行者が踊ったものが始まりとされています。「京都鬼剣舞」は、鬼剣舞の踊り組の頂点に立つ「岩崎鬼剣舞」に魅せられ、京都から岩手に毎年通い指導を受け平成10年(1998)に「印可の証」を受けて発足した踊り組です。毎年岩手県で行われる「北上みちのく芸能まつり」をはじめ、日本各地で様々な公演や奉納を行っています。



能楽・金春流

3/5

聖徳太子に仕えた秦河勝を家祖とすると言われ、現家元金春憲和で八十一世を数える能楽最古の歴史を有する流儀です。旧くは「円満井座」と称しました。流儀中興の祖、五十七世金春禅竹は能楽の大成者世阿弥の娘婿で、世阿弥から「六義」「拾玉得花」のほか多くの伝書を相伝されるなど、世阿弥とは親密な関係でした。岳父の薫陶を得た禅竹は、名曲と謳われる「杜若」や「野宮」などの能作、また「六輪一露之記」「歌舞随脳記」「明宿集」など多くの伝書を残すなど、世阿弥の事績を受け継ぎ能楽大成に大きく寄与しました。



金春穂高

1965年奈良県生まれ。神戸大教育学部卒。奈良市在住。シテ方金春流77世宗家II故・金春栄治郎の孫、故・金春見実の長子。1969年『花籠』の子方で初舞台。1978年『初雪』で初シテ。1980年『石橋』。1986年『乱』。1997年『道成寺』。2018年『卒都婆小町』を披く。